

水の大切さと生き物の気持ちを考える

僕は家でグッピーを飼っています。

小学校三年生の時に始まった自由研究でカプトムシやクワガタムシでは皆がしているからおもしろくないと親にねだって、ホームセンターというところでグッピーのつがいを飼ってもらいました。水槽は中くらいですが入っている水の量はかなりあります。

じょうろで三杯分くらいあります。だから水槽はものすごく重たくて一人で運ぶことはできません。

最初の頃、僕は熱心にエサをあげたり水を替えたりとグッピーのお世話をしていたのですが、だんだんとグッピーの数が増えて、半年もすると二十匹を超えて、少し面倒くさくなってきました。そして水替えをさぼると水が濁って少し匂いもしてきました。

夏休みは自由研究があるので四年生、五年生と自分で夏の間はなんとかお世話をしますが、それ以外の時期は親に頼り切っていました。

夏場は水温が上昇しすぎてグッピーが死んでしまうことがありました。逆に冬場はヒーターが弱くて水温が下がってしまい熱帯魚のグッピーは死んでしまう数が増えました。

僕は水槽に浮いているグッピーの死骸を見るのが怖くなってきたのです。だから全部の世話を親に頼むようになってしまいました。

僕が六年生になり、また夏休みの自由研究に何をしようかなあと迷っていた時のことです。

僕は昼寝をしていたらしいのですが、ものすごく怖い夢を見ました。夢の内容は自分が水槽の中のグッピーに誘われて、自分も魚になり一緒に遊ぶ夢でした。僕は塾の夏期講習にすく行くきたくなかったから、夢をみている最初のころは、魚になって塾をさぼれたのでとてもハッピーな気分でした。グッピーたちと水槽の中で泳ぎ回ってとても楽しかったのです。

しだいにお腹が空いてきて、さて自分の部屋に戻ろうとしたら玄関の水槽から戻れなくなってしまったのです。大声で叫んでも無駄でした。そして呼吸がものすごく苦しくなりました。

自分は魚のまま人間の姿に戻れずそのまま水槽の中で死んでしまうのではないかとものすごく怖くなりました。

夢の最後の方で、グッピーたちに相談したら、

「君はぼくたちとこの水槽の水の中で一緒に暮らすのさ、もう人間には戻れないんだ。」と言われて絶望しました。もう泣くしかありませんでした。

母親に起こされて、その夢から覚めたのですが、夢の内容を母親に話すと

「口うるからもの言うことができないベットの粗末に扱ったために、

そういう夢をみたのかも。グッピーたちがあなたに復讐したのではないのかな。

お魚はきれいな水がないと苦しくて死んでしまうのだから。」と言われました。

僕はまさかグッピーの復讐とはと笑いましたが、

やはり心当たりがあるので、すくく反省しました。

それからは、グッピーのエサやりと毎週の水替えは自分がやるようにしました。

そして六年生の自由研究も水槽のグッピーを観察して

なんとか仕上げることができました。

水槽の水替えをきちんとして、水温を毎日測ることで、

グッピーが死ぬことはものすごく減りました。

なんだかグッピーも嬉しそうに水槽の中を泳いでいるように見えました。

生命にとって水はものすごく大切ですが、

魚はまず第一に酸素がいっぱいあるきれいな水がないと生きていくことができません。

それは人間が新鮮な空気のないところで

生きていくことができないのと同じことだと感じました。

僕はその夢をみたことで、きれいな水の大切さと

新鮮な空気を吸って生きていけることの

幸せを実感しました。

そしてもの言うことができない生き物を

大切に扱わなければいけないと本当に反省しました。

筑波大学附属小学校 六年

平野 惠太郎

絵 小林 隆則